

## 宗教観と家庭教育

### —女子大学生を対象とした質問紙調査より—

表 真 美

(教育学科教授)

#### 1. 研究の目的

##### (1) 現代の家庭教育

家族の変容に伴い、家庭の教育力の低下が言われて久しい。国立教育政策研究所が行った家庭でのしつけの実態や家族・子育てに関する意識についての調査<sup>1)</sup>によると、半数以上が最近の家庭教育力が低下していると思っていた。その理由としては、「子どもに対して、過保護、甘やかせずや過干渉な親の増加」の回答がもっとも多く、66.7%であった。また、自身の子育ての評価として、「よくわからないことがたくさんあった」と約半数が答えている。この回答は若い世代ほど高く、25から34歳では63.4%にのぼる。地域や世代間のつながりの希薄化、家庭内で幼い姉妹を世話する機会の減少、ライフスタイルの多様化などが、家庭教育力低下の背景として論じられている。

一方で、このような「家庭教育力低下」の論調に疑問をもつ意見がある。それは、戦前と比較すると子どもの教育に熱心な層がふえているという見解からである。高度成長期には専業主婦が家事や育児・しつけに専念することで、「子育ての質」を高める家族が広がり、しつけの責任は母親一人に課せられた<sup>2)</sup>。1980年代以降、女性の労働化が進んでも子育ての質への関心は強まり続けおり、高学歴女性は子育てか自分のキャリア形成のどちらをとるか悩んでいる<sup>3)</sup>。ベネッセ教育開発センターによる子育て生活基本調査の経時変化をみると、「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」と回答する割合が、1997年から2008年の11年間で20%近く減少し、自分を犠牲にして子育てを優先しよう

とする傾向が高まっている<sup>4)</sup>。子育ての質が求められる中、仕事をもちながらも、子育て、しつけの責任を一手に課された母親が戸惑う姿が浮かび上がる。また、少年による凶悪事件や児童虐待の報道が、「家庭教育力が低下している」との意識を助長していると考えられる。

##### (2) 保護者調査、保育者調査からみた宗教観と家庭教育

これまでに筆者は「家庭教育」について、京都市内の保護者を対象とした調査、および幼稚園教諭・保育士を対象とした調査を行ってきた。その両者において、宗教観と家庭教育の関連が明らかになっている。

2009年に京都市内の64の私立保育園・私立幼稚園に依頼して行った4526家族を対象とした家庭教育に関する調査では、園を決めた理由として「仏教・キリスト教精神を教えていること」を選んだ「宗教重視グループ」の保護者は、日頃の生活の中で子どもに対して「悪いことをするとばちがあたる」「仏様や神様がみているから悪いことはしてはいけない」と言う頻度が高く、また、知育、情操教育、しつけ、家庭内のルールを決めるなど、家庭教育全般に熱心であった。また、「宗教重視グループ」の保護者は、子育てを前向きにとらえ、子どもの様子や心配事を夫婦で話し合う頻度が高く、「子どもが3歳くらいまでは母親が育てた方がよい」との考えが強かった。さらに、宗教的なしつけ、知育の頻度は仏教系、また、礼儀作法のしつけと、図書館、美術館へ行く頻度はキリスト教系の園の保護者が高くなった。叱るよりほめる、絵本の読み聞かせの頻度は、宗教系の園の保護

者が高くなった<sup>5)</sup>。

一方、2014年に京都市内の17幼稚園、24保育園の協力により、幼稚園教諭184名、保育士324名、計508名を対象として行った質問紙調査では、宗教系の園とそうでない園に分けて比較分析を行った。その結果、無宗教園の教諭・保育士の方が有意に園児が以前よりも自己抑制ができなくなったと回答した。「しつけ方のわからない親の増加」「家庭教育に関心のない親の増加」など家庭教育力低下理由の9項目中7項目について、無宗教園の方が宗教園より有意に多く肯定していた。また、困惑する保護者の態度も、「園長先生や自治体の管轄部署に話をする」「保育料や給食費・教材費などを払えるのに払わない」保護者が、無宗教園の方が有意に多いとの回答結果だった<sup>6)</sup>。

2009年の保護者調査では、自由記述において「子どもの叱り方がわからない。」と訴える親が多かった。子どもが悪いことをしたとき叱ったり諭す際や善悪の判断、礼儀作法のしつけをする際に、宗教の教えのような拠り所があることが役立つのではないかと考えられる。

### (3) 本研究の目的

社会が変容し、家庭教育が困難になる中、現代の親は社会からの圧力を受け悩んでいると考えられる。そのなかで、保護者、および保育者を対象に行った調査では、宗教が家庭教育にプラスの方向で影響を及ぼすことが明らかとされた。さらに家庭教育力向上への宗教の可能性をさぐるために、本研究では女子大学生の幼少期の宗教への接触が現在の状況に影響を及ぼすのかどうかを明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

### (1) 分析資料の収集

本研究では、女子大学生を対象とした自記式質問紙調査を資料に用いた。調査は、2014年1月および9月に、集合法により実施した。調査内容は、小・中学生時の家庭における宗教に関する習慣、年中行事、家庭教育、食生活、および現在の生活習慣、自尊感情、心身の健康、携帯依存、倫理観、親子関係、職業意識、子育て

意識である。347名の回答の全てが有効であり、分析対象とした。対象者の年齢は18歳41名、19歳115名、20歳161名、21歳22名、22歳6名（不明2名）であった。

### (2) 分析の枠組み

図1に本研究の分析の枠組みを示した。先述の保護者・保育者調査では、宗教観、宗教系の幼稚園・保育園と家庭教育との関連について分析した。本研究の従属変数は、生活習慣、自尊感情、健康不良、倫理観、親子関係といった現在の学生の状況である。小・中学生時の宗教に関連する習慣・行事の頻度、家庭教育、食生活、祖父母との同居と学生の状況との関連を重回帰分析を用いて明らかにする。「祖父母との同居」以外の10項目は、複数の変数を設定していたため、因子分析を行った。因子が得られず、 $\alpha$ 係数が極端に低かった「倫理観」は各々の変数を用いた。それ以外は、 $\alpha$ 係数が多少低いものも見られたが、すべて得られた因子を合計して一変数として分析した。

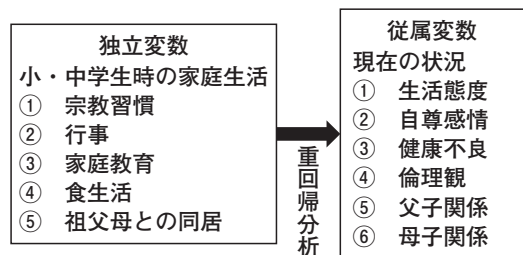


図1 分析の枠組み

## 3. 研究結果と考察

### (1) 女子大学生の小・中学生時の宗教習慣、および家庭生活

#### ① 小・中学生時の宗教に関連する習慣

図2に小・中学生時の家庭での宗教に関連する習慣の結果を示した。「よくあった」との回答は、「食事の前後に手を合わせて挨拶」「ばちがあたると言われる」「墓参り」の順であった。「時々あった」も含めると、「仏壇にお供えしたり拝んだりする」も半数を超えた。因子分析を行った結果、表1に示すように2因子が抽出され、各々「宗教教育」「お参り」と命名し、

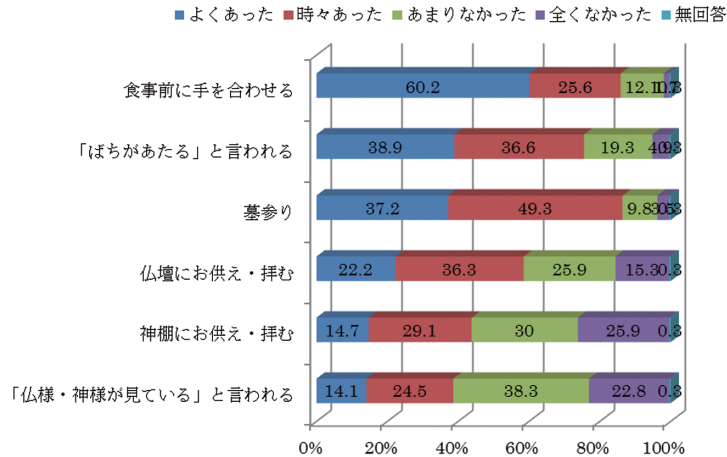


図2 小・中学生時の家庭における宗教に関する習慣

表1 宗教習慣の因子分析

|        | 因子               |                   |
|--------|------------------|-------------------|
|        | お参り<br>$a = 733$ | 宗教教育<br>$a = 605$ |
| 仏壇拝む   | .853             | .228              |
| 神棚拝む   | .636             | .287              |
| 墓参り    | .500             | .150              |
| 手を合わせる | .138             | .289              |
| ばちがあたる | .145             | .765              |
| 仏様みている | .265             | .641              |
| M      | 8.85             | 8.19              |
| S D    | 1.97             | 2.25              |

主因子法, Kaiser の正規化を伴うバリマックス法, 3 回の反復で回転が収束

表2 行事の因子分析

|       | 因子                  |                 |
|-------|---------------------|-----------------|
|       | 年中行事<br>$a = 0.747$ | 仏事<br>$a = 524$ |
| 初詣    | .370                | .183            |
| 節分    | .813                | .013            |
| ひな祭り  | .765                | .168            |
| 七夕    | .578                | .280            |
| クリスマス | .497                | .217            |
| 通過儀礼  | .476                | .188            |
| 法事    | .075                | .573            |
| お盆    | .269                | .584            |
| M     | 19.82               | 6.66            |
| S D   | 3.49                | 1.47            |

主因子法, Kaiser の正規化を伴うバリマックス法, 3 回の反復で回転が収束

各々を独立変数とした。

## ② 小・中学生時の家庭における行事の頻度

小・中学生時の家庭における 8 つの行事の頻度を 4 件法で尋ねたところ, 「よく行った」との回答は, 「クリスマス」がもっとも多く 73.5% 「初詣」 67.4%, 「お盆」 63.1% の順となった。「七夕」を除くとすべて 5 割を超える結果となった。因子分析を行った結果, 表 2 に示すように 2 因子が抽出され, 「年中行事」「仏事」と命名し, 各々を独立変数とした。

## ③ 小・中学生時の家庭教育

小・中学生時の家庭における教育に関連する

家族との 15 種の共同行動の頻度について, 4 件法で尋ねた。「よくあった」との回答は, 「家族みんなで食事をする」 73.8%, 「家族一緒に話をする」 63.4%, 「一日の出来事を家族に聞いてもらう」 52.2% の順で高かった。また, 低かったのは, 「休みの日に家族で美術館や博物館に行く」 5.5%, 「家族と一緒に図書館に行く」 8.4%, 「休みの日に家族で動物園・植物園・水族館に行く」 11.5% となり, 文化施設を訪れることであった。

表 3 家庭教育の因子分析

|       | 因子                  |                     |                    |                   |                    |
|-------|---------------------|---------------------|--------------------|-------------------|--------------------|
|       | ふれあい<br>$a = 0.724$ | 文化施設<br>$a = 0.579$ | しつけ<br>$a = 0.556$ | 知育<br>$a = 0.607$ | ルール<br>$a = 0.575$ |
| 一緒に遊ぶ | .356                | .325                | .050               | .236              | .156               |
| 一緒に食事 | .697                | .158                | .008               | .06               | .051               |
| 一緒に話  | .356                | .325                | .050               | .236              | .156               |
| 出来事聞く | .496                | .124                | .057               | .300              | .068               |
| 図書館   | .120                | .290                | -.004              | .213              | .125               |
| 動物園   | .180                | .673                | .051               | .114              | .046               |
| 美術館   | .079                | .602                | -.010              | .169              | .089               |
| 礼儀    | .097                | .027                | .834               | -.027             | .010               |
| 言葉    | .049                | .111                | .511               | .089              | .082               |
| 叱られる  | -.052               | -.070               | .424               | .029              | .086               |
| 本     | .132                | .289                | .020               | .544              | .139               |
| 勉強    | .123                | .183                | .089               | .668              | -.004              |
| お手伝い  | .072                | .146                | .171               | -.006             | .852               |
| ルール   | .105                | .026                | .278               | .290              | .337               |
| 家事    | .233                | .225                | .050               | .241              | .368               |
| M     | 13.32               | 6.59                | 8.89               | 5.52              | 8.03               |
| S D   | 2.22                | 2.03                | 1.75               | 1.59              | 1.92               |

主因子法, Kaiser の正規化を伴うバリマックス法, 5 回の反復で回転が収束

表 4 食生活の因子分析

|        | 因子                  |                   |
|--------|---------------------|-------------------|
|        | 食外部化<br>$a = 0.655$ | 内食<br>$a = 0.491$ |
| 外食     | .497                | .090              |
| おそうざい  | .791                | -.071             |
| 出前     | .491                | -.025             |
| インスタント | .519                | -.018             |
| 手作り    | -.036               | .479              |
| 楽しい    | .054                | .801              |
| M      | 9.66                | 7.55              |
| S D    | 2.22                | 0.83              |

主因子法, Kaiser の正規化を伴うバリマックス法, 3 回の反復で回転が収束

因子分析を行った結果, 表 3 に示すように 5 因子が抽出され, 「ふれあい」「文化施設」「しつけ」「知育」「ルール」と命名し, 各々を独立変数とした。2009年に行った保護者調査でも,

一部異なるが, 同様の項目で調査の結果を因子分析したところ, ほぼ同様に 5 因子が抽出された。家庭で行われる教育は, この 5 つに分類されることが示唆される。

#### ④ 小・中学生時の食生活

小・中学生時の家庭における食生活について, 外部化と食事の楽しさの 6 場面について頻度を尋ねた。「家族の手作り料理を食べる」「食事のときに楽しいと感じる」ことが「よくあった」との回答は多く (各々 89.0%, 72.6%), 「ピザやお寿司などの出前をとる」は少なかった (2.0%)。因子分析を行った結果, 表 4 に示すように 2 因子が抽出され, 「食の外部化」「内食」と命名し, 各々を独立変数とした。

#### ⑤ 祖父母との同居

祖父母のどちらか, または両者と同居している対象者は 92 名 26.5% であった。同居している人を 1, そうでない人を 0 として独立変数に加えた。

表5 独立変数の相関

|         | 宗教教育   | お参り    | 年中行事    | 仏事     | ふれあい   | 文化施設   | しつけ    | 知育     | ルール     | 食外部化    | 内食     | 祖父母    |
|---------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|--------|--------|
| 宗教教育    | 1      | .423** | .249**  | .449** | .112*  | .113*  | .135*  | .081   | .110*   | -.083   | .053   | .300** |
| お参り     | .423** | 1      | .392**  | .263** | .249** | .195** | .246** | .163** | .252**  | -.046   | .226** | .126*  |
| 年中行事    | .249** | .392** | 1       | .350** | .452** | .358** | .008   | .307** | .201**  | -.154** | .310** | .053   |
| 仏事      | .449** | .263** | .350**  | 1      | .213** | .182** | .025   | .186** | .116*   | -.104   | .156** | .146** |
| ふれあい    | .112*  | .249** | .452**  | .213** | 1      | .384** | .081   | .375** | .359**  | -.134*  | .489** | .007   |
| 文化施設    | .037   | .000   | .000    | .000   | .000   | .000   | .132   | .000   | .000    | .013    | .000   | .901   |
| しつけ     | .113*  | .195** | .358**  | .182** | .384** | 1      | .070   | .392** | .291**  | -.090   | .212** | -.114* |
| 知育      | .036   | .000   | .000    | .001   | .000   | .000   | .191   | .000   | .000    | .095    | .000   | .034   |
| ルール     | .135*  | .246** | .008    | .025   | .081   | .070   | 1      | .098   | .262**  | .074    | .022   | .022   |
| 食外部化    | .012   | .000   | .876    | .649   | .132   | .191   | .069   | .069   | .000    | .171    | .678   | .686   |
| 内食      | .081   | .163** | .307**  | .186** | .375** | .392** | .098   | 1      | .312**  | -.107*  | .192** | .028   |
| 祖父母との同居 | .132   | .002   | .000    | .001   | .000   | .000   | .069   | .000   | .000    | .048    | .000   | .605   |
|         | .110*  | .252** | .201**  | .116*  | .359** | .291** | .262** | .312** | 1       | -.149** | .158** | -.022  |
|         | .042   | .000   | .000    | .032   | .000   | .000   | .000   | .000   | .000    | .005    | .003   | .686   |
|         | -.083  | -.046  | -.154** | -.104  | -.134* | -.090  | .074   | -.107* | -.149** | 1       | .006   | -.071  |
|         | .126   | .394   | .004    | .055   | .013   | .095   | .171   | .048   | .005    | .006    | .907   | .191   |
|         | .053   | .226** | .310**  | .156** | .489** | .212** | .022   | .192** | .158**  | .006    | 1      | .022   |
|         | .327   | .000   | .000    | .004   | .000   | .000   | .678   | .000   | .003    | .907    | .000   | .690   |
|         | .300** | .126*  | .053    | .146** | .007   | -.114* | .022   | .028   | -.022   | -.071   | .022   | 1      |
|         | .000   | .019   | .327    | .007   | .901   | .034   | .686   | .605   | .686    | .191    | .690   | .000   |

上段：Pearson の相関係数，下段：有意確率（両側），\*\* 1 %水準で有意・\* 5 %水準で有意（相関係数0.2以上に網かけ）



## (2) 小・中学生時の宗教習慣と家庭生活との関連

女子大学生の小・中学生時の宗教習慣と家庭生活との関連を明らかにするために、相関分析を行った。表5にその結果を示す。相関係数0.2以上を網かけとした。

「悪いことをするとばちがあたるなどと言われる」などの「宗教教育」、および「仏壇・神棚などにお供えしたり拝んだりする」「墓参り」を合わせた変数である「お参り」と行事、家庭教育、食生活には相関が認められた。両者と行事頻度との相関は高く、宗教習慣頻度が高いと行事の頻度は高くなった。「クリスマス」以外の行事は、我国の伝統文化である。宗教習慣もその一つと考えられるので強い相関が見られたのだろう。

また、「宗教教育」は祖父母と同居している方が、頻度が高い結果となった。「悪いことをするとばちがあたる」「神様、仏様がみているからいいこにしてください」のようなしつけ方をするのは、年配者に多いことが窺われる。

さらに、「お参り」に関しては、「ふれあい」「しつけ」「ルール」の家庭教育頻度、および「肉食」と正の相関が認められた。宗教の重視が家庭教育や家庭生活にプラスの方向で関連することは、前述の2009年保護者調査、2014年保育者調査と同様の結果が得られたことになる。宗教と家庭教育の関連がさらに明らかになった。宗教を重視する家庭は、家庭内の規律を大切にしており、しつけや家庭内のルール作りに熱心なことが示唆された。先祖を大切に思うことは、親子の関係を大切にすることにもつながり、その結果として親子のふれあいや手作りの食、楽しい食卓が実現されることが考えられる。

## (3) 女子大学生の現在の状況

### ① 生活態度

睡眠、食事などの生活に関連する8場面についてあてはまるかどうかを4件法で尋ねた。「あてはまる」との回答は、「毎朝朝食を食べている」54.8%、「日常生活でできるだけ歩いたり、身体を動かしたりしている」22.2%、「睡眠を充分にとっている」20.2%の順で高くなっ

た。「自分の部屋は自分で整理整頓・掃除し、いつもきれいである」がもっとも低く、8.4%であった。因子分析を行った結果、表6に示したように2因子が抽出され、「生活習慣」「生活自立」と命名し、各々を従属変数とした。

表6 生活態度の因子分析

|        | 因子                     |                        |
|--------|------------------------|------------------------|
|        | 生活習慣<br>$\alpha = 723$ | 生活自立<br>$\alpha = 634$ |
| 睡眠     | .413                   | .079                   |
| 朝食     | .596                   | -.015                  |
| 栄養     | .630                   | .079                   |
| 身体を動かす | .458                   | .196                   |
| 規則正しい  | .806                   | .159                   |
| 整理整頓   | .345                   | .619                   |
| 洗濯     | -.038                  | .688                   |
| 料理     | .097                   | .526                   |
| M      | 13.79                  | 7.02                   |
| S D    | 3.03                   | 1.88                   |

主因子法、Kaiserの正規化を伴うバリマックス法、3回の反復で回転が収束

### ② 自尊感情

自尊感情は、桜井（2002）によるローゼンバーク自尊感情の日本語訳を用いた<sup>7)</sup>。平均値と標準偏差、また、因子分析の結果を表7に示すように、プラスとマイナスの2因子が抽出された。「前向き」「マイナス思考」とし、各々を従属変数とした。

### ③ 健康不良

心身の健康に関しては5つの場面にあてはまるかどうか、4件法で尋ねた。「あてはまる」との回答は、「朝起きるのがつらい」44.4%、「根気がない」13.8%、「からだがだるい」13.5%、「イライラする」11.5%、「人と話すのがいや」4.9%の順であった。因子分析の結果、1因子しか抽出されず、5項目を合計して「心身の健康」として従属変数とした（ $\alpha = 0.668$ ）。

### ④ 倫理観

倫理観として尋ねたのは、「バスや電車でお年寄りや体の不自由な人に席を譲る」「急に雨

表 7 自尊感情の平均値・標準偏差，因子分析

|                     | M / S D |       | 因子                      |                            |
|---------------------|---------|-------|-------------------------|----------------------------|
|                     |         |       | 前向き<br>$\alpha = 0.493$ | マイナス思考<br>$\alpha = 0.690$ |
| すべての点で自分に満足している     | 2.00    | 0.648 | .467                    | -.335                      |
| 自分には見どころがあると思っている   | 2.49    | 0.656 | .643                    | -.215                      |
| たいていの人がやれる程度にはできる   | 2.71    | 0.630 | .680                    | -.114                      |
| あまり得意に思うところがない      | 2.31    | 0.722 | .482                    | -.414                      |
| 他人と同じレベルに立つだけの価値がある | 2.63    | 0.648 | .785                    | -.107                      |
| 自身に対して前向きな態度をとっている  | 2.54    | 0.750 | .451                    | -.383                      |
| 私はときどき自分がてんでだめだと思う  | 3.03    | 0.698 | -.439                   | .583                       |
| 時々確かに自分が役立たずだと感じる   | 2.88    | 0.679 | -.424                   | .565                       |
| もう少し自分を尊敬できればと思う    | 2.99    | 0.636 | .045                    | .502                       |
| 例外なく自分も失敗者と思いがちだ    | 2.46    | 0.735 | -.368                   | .465                       |
| M                   |         |       | 14.69                   | 11.35                      |
| S D                 |         |       | 2.87                    | 1.58                       |

主因子法，Kaiser の正規化を伴うバリマックス法，3 回の反復で回転が収束

表 8 父子・母子関係の因子分析

|              | 因子（母）                   |                            | 因子（父）                   |                            |
|--------------|-------------------------|----------------------------|-------------------------|----------------------------|
|              | 好印象<br>$\alpha = 0.841$ | マイナス印象<br>$\alpha = 0.886$ | 好印象<br>$\alpha = 0.892$ | マイナス印象<br>$\alpha = 0.884$ |
| 役立つ事言ってくれる   | .709                    | -.104                      | .786                    | .045                       |
| 丁寧に聞いてくれる    | .715                    | -.181                      | .799                    | .018                       |
| 意見を尊重してくれる   | .650                    | -.243                      | .787                    | -.071                      |
| よくわかってくれる    | .788                    | -.185                      | .817                    | -.027                      |
| ゆっくり聞いてくれる   | .794                    | -.243                      | .571                    | -.063                      |
| 相談したい        | .703                    | -.127                      | .819                    | -.075                      |
| 大事にしてくれている   | .603                    | -.154                      | .667                    | .006                       |
| ほめ方叱り方がかわる   | -.117                   | .749                       | .012                    | .823                       |
| ときにより言うことかわる | -.131                   | .808                       | .001                    | .835                       |
| 耳を傾けてくれない    | -.239                   | .631                       | -.060                   | .767                       |
| 価値を押し付ける     | -.139                   | .684                       | .015                    | .793                       |
| ひどく憎らしくなる    | -.241                   | .615                       | -.093                   | .730                       |
| M            | 26.31                   | 12.69                      | 24.15                   | 12.57                      |
| S D          | 6.57                    | 5.18                       | 7.92                    | 6.23                       |

主因子法，Kaiser の正規化を伴うバリマックス法，3 回の反復で回転が収束

に降られた時，自分のものでない傘を勝手に使う」「友人がルールに反することをしていたらやめさせる」の 3 場面である。4 件法でよくあるとの回答は各々 20.5%，0.6%，7.2%であっ

た。因子分析の結果，因子は抽出されず，また，3 変数の  $\alpha$  値は低かったので（ $\alpha = 0.155$ ），各々の変数，3 変数を従属変数とした。

### ⑤ 母子・父子関係

親子関係に関しては、12項目について、母・父別々に5件法で尋ねた。因子分析を行ったところ、母親、父親各々プラス面とマイナス面で同様に2因子が抽出され、「母好印象」「母マイナス印象」「父好印象」「父マイナス印象」と命名し(表8)、各々を従属変数とした。

### (4) 現在の女子大学生の状況に影響を及ぼす要因

小・中学生時の家庭における宗教に関連する習慣を含む独立変数を前述の12変数とし、現在の女子大学生の状況として、前述の12変数について、重回帰分析を行った。倫理観のうち「急に雨に降られた時、自分のものでない傘を勝手に使う」以外の11変数において、有効な回帰式が得られた。結果を表9に示す。

#### ① 生活態度

生活態度には、ルール因子、すなわち「決まったお手伝いを毎日する」「遊びや勉強を家庭内のルールをきめて行う」「家族と一緒に料理作りなどの家事をする」を合計した変数とプラスの関連が認められた。子どもの頃の家事分担や家庭内のルールが現在の生活態度に影響を及ぼすことは、うなずける結果である。それに加え、生活習慣には「年中行事」の頻度がプラスの方向で、衣食住の生活自立には「しつけ」がマイナスの方向で影響していた。

#### ② 自尊感情

前向きな感情には、「家族一緒に遊んだりスポーツをする」「家族みんなで食事をする」「家族一緒に話をする」「一日の出来事を家族に聞いてもらう」の家族のふれあいを多く行うこと、そして、外食、惣菜や出前、インスタント食品などの食の外部化がマイナスの方向で関連が見られた。一方、マイナス思考には、挨拶や礼儀作法、言葉のみだれについて注意されたり、厳しく叱られたりした「しつけ」頻度の高いことが最も影響を及ぼしており、次いで、食の外部化、祖父母との同居と関連が認められた。自尊感情に食の外部化がマイナスの方向で影響を及ぼすことは示唆的である。

### ③ 健康不良

初詣、節分、ひな祭りや端午の節句、七夕、クリスマス、七五三などの行事を行っていない、前述の厳しい「しつけ」を受けた、図書館、動物園、美術館などの文化施設に行った対象者が、健康不良を訴える結果となった。これまで家族で文化施設に行った経験は、子どもによい影響を及ぼすとの研究結果が見られたが<sup>38)</sup>、今回は逆の結果となった。

### ④ 倫理観

「バスや電車でお年寄りや体の不自由な人に席を譲る」について、仏壇・神棚にお供えをしたり拝んだりすること、お墓参りの頻度がプラスの方向で関連が認められた。これが唯一の小・中学生時の家庭での宗教習慣と現在の状況との関連であった。手を合わせて先祖や神に感謝をする習慣が、弱者への思いやりや人前で席を譲ることをためらわない勇気を生みだすことが示唆される。

「友人がルールに反することをしていたらやめさせる」に関しては、「ルール」、すなわち小・中学生時の家庭でのルールや家事分担と関連がみられた。

### ⑤ 母子・父子関係

母子関係、父子関係とプラスの方向で関連が見られたのは、自尊感情でも関連が見られた家族の「ふれあい」である。逆にマイナスの関連が見られたのは、「しつけ」であった。小・中学生時に厳しくしつけられたことは、成長してもよくない印象を残すことが示唆される。さらに関連があったのは、食生活の内食である。「家族の手作りの料理をたべる」「食事のとき楽しいと感じる」ことは、家族とのコミュニケーションも含むため、親子の関係作りに重要な役割を持つことが示唆される。さらに、母子関係の好印象には、「本をよんでもらう」「勉強を教えてもらう」知育、ルールも関連していた。本の読み聞かせや家事分担を通した母子のコミュニケーションが好影響を及ぼすことが示唆された。



表9 小・中学生時の家庭生活と現在の状況との関連（重回帰分析）

| 標準化係数（ $\beta$ ） |          |         |          |         |         |         |         |        |         |         |         |         |
|------------------|----------|---------|----------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 生活態度             |          |         | 自尊感情     |         | 健康不良    |         | 倫理観     |        | 母子関係    |         | 父子関係    |         |
|                  | 生活習慣     | 生活自立    | 前向き      | マイナス思考  | 不良      | 席を譲る    | 違反やめさせる | 好印象    | マイナス印象  | 好印象     | マイナス印象  |         |
| 宗教習慣             | 宗教教育     | -0.076  | -0.004   | 0.023   | -0.07   | -0.005  | 0.031   | -0.018 | 0.017   | -0.075  | -0.012  | -0.017  |
|                  | お参り      | -0.07   | -0.006   | -0.054  | 0.048   | 0.077   | **0.179 | 0.061  | -0.41   | 0.066   | 0.032   | -0.016  |
|                  | 年中行事     | *0.167  | -0.01    | 0.121   | -0.068  | *-0.152 | -0.047  | 0.058  | 0.104   | 0.01    | 0.074   | 0.098   |
| 行事               | 仏事       | -0.063  | 0.088    | -0.068  | 0.004   | 0.022   | -0.018  | -0.036 | 0.048   | -0.052  | 0.05    | -0.002  |
|                  | 家庭教育     | 0.007   | 0.023    | *0.15   | 0.01    | -0.098  | 0.111   | 0.021  | **0.178 | *-0.156 | **0.229 | -0.119  |
|                  | 文化施設     | 0.043   | 0.051    | 0.111   | -0.004  | *0.125  | 0.109   | -0.024 | -0.091  | 0.017   | -0.052  | -0.107  |
| しつけ              | しつけ      | -0.06   | *-0.118  | 0.008   | **0.172 | *0.128  | 0.004   | 0.109  | -0.07   | **0.274 | -0.047  | **0.197 |
|                  | 知育       | -0.049  | 0.015    | 0.023   | -0.024  | -0.026  | -0.055  | 0.026  | **0.166 | -0.048  | 0.088   | -0.047  |
|                  | ルール      | **0.177 | ***0.223 | 0.028   | 0.058   | -0.059  | 0.095   | *0.159 | *0.122  | -0.043  | 0.069   | 0.018   |
| 食生活              | 食外部化     | -0.076  | -0.029   | *-0.111 | **0.154 | 0.102   | 0.013   | 0.02   | 0.006   | 0.082   | 0.078   | 0.105   |
|                  | 内食       | 0.104   | -0.021   | 0.014   | -0.079  | -0.104  | -0.037  | -0.021 | **0.155 | *-0.136 | 0.088   | *-0.153 |
|                  | 祖父母との同居  | 0.012   | 0.092    | 0.013   | *0.138  | 0.023   | 0.085   | 0.019  | 0.039   | -0.028  | 0.03    | -0.018  |
| R                | R        | 0.316   | 0.305    | 0.335   | 0.305   | 0.316   | 0.309   | 0.258  | 0.462   | 0.414   | 0.398   | 0.35    |
|                  | R 二乗     | 0.1     | 0.093    | 0.112   | 0.093   | 0.1     | 0.096   | 0.067  | 0.214   | 0.172   | 0.159   | 0.122   |
|                  | 調整済みR 二乗 | 0.067   | 0.059    | 0.08    | 0.059   | 0.066   | 0.062   | 0.032  | 0.184   | 0.141   | 0.127   | 0.089   |
|                  | F 値      | 2.966   | 2.77     | 3.421   | 2.741   | 2.997   | 2.869   | 1.036  | 7.311   | 5.582   | 4.98    | 3.672   |
|                  | 有意確立     | 0.001   | 0.001    | 0       | 0.001   | 0.001   | 0.001   | 0.03   | 0       | 0       | 0       | 0       |

有意確率：\* < 0.05 \*\* < 0.01 \*\*\* < 0.001

#### 4. まとめと今後の課題

本研究では、幼少期の宗教への接触が現在の状況に影響を及ぼすのかどうかを明らかにすることを目的に、女子大学生を対象とした自記式質問紙調査を2014年1月および9月に、集合法により実施した。

その結果明らかになったことは、以下の4点にまとめることができる。

- 1) 仏壇・神棚などにお供えしたり拝んだり、墓参りをする頻度の高い家庭では、家族一緒に遊んだり話をしたりする親子のふれあいや礼儀作法、言葉遣いなどのしつけ、家庭内のルールを決めて家事をするなどの家庭教育頻度が高く、また、手作りの料理を食べたり食事が楽しいと思うことが多かった。宗教の重視が家庭教育や家庭生活にプラスの方向で関連することは、前述の2009年保護者調査、2014年保育者調査と同様の結果が得られたことになり、宗教と家庭教育の関連がさらに明らかになった。宗教を重視する家庭は、家庭内の規律を大切にしており、しつけや家庭内のルール作りに熱心なこと、先祖を大切に思うことは、親子の関係を大切にすることにもつながり、その結果として親子のふれあいや手作りの食、楽しい食卓が実現されることが考えられる。
- 2) 小・中学生時に仏壇・神棚などにお供えしたり拝んだり、墓参りをした頻度の高い学生は、バスや電車でお年寄りや体の不自由な人に席を譲る頻度が高くなった。手を合わせて先祖や神に感謝をする習慣が、弱者への思いやりや人前で席を譲ることをためらわない勇気を生みだすことが示唆される。
- 3) 宗教への接触以外の現在の女子大学生の状況に影響を及ぼす小・中学生時の家庭教育に目を向けると、プラスの要因としては、親子のふれあい（自尊感情、母子関係、父子関係）、家庭内のルールを決めて家事や遊び・

勉強を行うこと（生活習慣、生活自立、倫理観、母子関係）、手作り食や食事を楽しいと思うこと（母子関係、父子関係）、家族で行事を行うこと（生活習慣、健康）であった。家庭教育に求められるのは、家庭の雰囲気や規律に留意した親子のふれあいと言えよう。

- 4) 一方で、マイナスの要因は、厳しく叱ったり、礼儀作法・言葉のしつけを行うこと（生活自立、自尊感情、健康、母子関係、父子関係）、および食の外部化（自尊感情）であった。小・中学生時に厳しくしつけられたことは、成長後よくない印象を残すことが示唆された。

今後は、宗教観と家庭教育がなぜ関連するのかについて、考察を深めるための研究を続けたい。さらに、家庭教育力向上への宗教の可能性を探るために、社会文化的な分析を含めた研究を進めたい。

#### 文 献

- 1) 国立教育政策研究所 (2001) 「家庭の教育力再生に関する調査研究」
- 2) 広田照幸 (1999) 『日本人のしつけは衰退したか』 講談社
- 3) 本田由紀 (2005) 『多元化する「能力」と日本社会』 NTT出版
- 4) ベネッセ教育研究開発センター (2008) 「第3回子育て生活基本調査（幼児版）」
- 5) 表真美 (2015) 「宗教観と家庭教育」『京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要』28, 63-78
- 6) 表真美 (2015) 「保育者がとらえる子どもの自立と家庭教育—幼稚園教諭・保育士を対象とした質問紙調査から—」『家政学原論研究』49, 30-41
- 7) 桜井茂男 (2000) 「ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版の検討」『発達臨床心理学研究』12, 65-71
- 8) 牧野カツコ (2006) 『家庭生活及び家族関係が児童・生徒の学校適応及び価値意識の形成に与える影響』（科学研究費補助金研究成果報告書）